



報道関係者 各位

NPO法人 放送批評懇談会

発表！2024年11月度ギャラクシー賞月間賞

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで62年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2025年6月上旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。放送の専門誌・月刊「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

Facebook



X (旧Twitter)



Instagram



<お問い合わせ先>

NPO法人 放送批評懇談会／担当：福島
〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F
Tel：03-5379-5521 Fax：03-5379-5510
kondankai@houkon.jp <https://www.houkon.jp/>



2024年11月度ギャラクシー賞月間賞

テレメンタリー2024「森の探偵となりのクマたち」

11月9日放送 4:50~5:20 長野朝日放送

長野県伊那谷の森の中で、そこに棲む動物たち、特にクマの生態実像を撮り続けている写真家・宮崎学の活動を追う。その写真、映像群から見えてくる、人が去ってしまった里山の荒廃、そして、人工物の影響を受けながら行動する動物たち＝シナントロップの登場など、人間と自然の関係が大きく崩れ出している危うさを指摘する重要な報告。

ETV特集「山田太一からの手紙」

11月9日放送 23:00~23:59 日本放送協会 テレビマンユニオン NHKエデュケーショナル

山田太一が、これほどまでに筆まめだったとは。俳優などの仕事仲間、知人、ファンレターへの返信。手紙を受け取った人たちは、彼の愛、信念を受け取って涙する。遺された膨大な手紙が物語るテレビドラマについての熱い思いは、今の制作陣や関係者にも響くものだ。シンプルな構成ながら、人間・山田太一の大きさに改めて心揺さぶられた。

NNNドキュメント'24「総理大臣を目指した人たち~2024 二つの党首選から見たこと~」

11月17日放送 24:55~25:50 日本テレビ放送網 ネットゲン

大島新監督のユーモアと鋭い目線が絶妙なバランスで混在し、いわゆる放送局制作の報道ドキュメンタリーとはまた違った切り口で、普段テレビに映し出されない政治家の一面が見えてくる、ほかにはない番組になった。取材を受けなかった候補者を含め、政治家側のメディアに対するスタンスや個性が垣間見られたことも興味深かった。

土曜ドラマ「3000万」

10月5日~11月23日放送 22:00~22:49 日本放送協会

現代の犯罪状況、その社会的背景をうまく反映したドラマだった。特に前半は、犯罪の泥沼にはまり込んでいく展開にドキドキするテンポ感。その後は、あるいは自分もと思える登場人物たちへの共感が大きくなっていく。キャストिंगもよく、NHKが立ち上げた脚本開発チームから集まった4人の脚本家による共作の成功例となった。

★詳細は月刊誌「GALAC」2025年2月号に掲載します